

令和3年11月8日

令和3年度 ヨネスコスクール NISHITA 校内研通信 No. 4

研究推進部 研究主任 佐々木

2年生 国語科「そうだんにのってください」

2年1.2組

◆本時について

- 情報を取捨選択したり、分類・整理したりすることができる。
- 友達と話し合うことのよさを振り返り、これからにいかそうとしている。

◆協議会での意見 授業を振り返る視点

〈分科会提案〉

インタビューが一度しかできない中で、自分では行けなくても、友達に聞いてきて、と意見を託すため質問の整理・分析を行った。発達段階をふまえて、タブレットではなく付箋にした。並び替えたり順番にしたり、付箋の使い方やよさに気付けた。

〈各学年から〉

- ・付箋での分類整理、楽しみながらできていた。付箋のよさが生かされていた。付箋は、量など感じられてよい。
- ・「おへや・おうち」というワードが子供に分かりやすかった。
- ・順序決めは一段難しい作業であるが、経験として積んでいくと上の学年につながる。実際にインタビューに行くと、順番を決めていても、一問一答になるとやりとりがなくなってしまう面もある。
- ・ボードの置き方。みんなが同じ方向でみられるおき方の工夫もできるのではないか。
- ・低学年で成功体験を積ませるには、グルーピングの大切さ。うまくいく組み合わせについては、指導者の腕。探検先の確保もたくさんあり、支援本部との連携できている。
- ・ESDの視点から考えるとお店の人のやりがいや思いを引き出す質問が優先ではないか。大事なもので絞るか、数でしぼるか。コミュニティの中でくらししている一人なんだという感覚をもたせていきたい。

〈分科会から〉

- ・優先順位は、答えやすいかどうかで分けた。最終的には大人の支援が必要。一問一答にならないように…導入から、他者意識をもたせることが軸になっている。
- ・生活科のねらい：「西田の町の魅力を伝えよう」社会とのつながりになってくる。自分だけでなく人とつながりながら生きていく、協力しながら力を借りて活動しているということを意識させたい。

【講師の先生より】

付箋＝KJ法について、「まとめる」、「タイトルをつける」、まででき、「自分たちでできるようになった」と子供たちが感じるようになっていた。KJ法などを通して、多様な発想を生み出す経験を低学年から積み重ねることが重要だ。また、付箋を使うことで、全員の意見や考えが視覚化できる。

教師の介入も最小限であった。今後の課題として、次の学習への見通しのもたせ方について、子供自身が次の問いや課題に気付くことができるようなはたらきかけ方や取り組みを工夫することが必要だ。

「ふり返り」は、感想文ではない。この1時間でこんなことができるようになった、という自分のことを書く。

- ・毎回：「どんなことが分かりましたか、気づきましたか」
- ・単元最後：「どんなことができるようになりましたか（資質能力にかかわる）」

【研究主任より】

付箋を活用したり、聞き方「あいうえお」を考えたりする等、工夫を凝らした授業だったと思います。

付箋等のアナログの活用の積み重ねが、広い意味での情報活用能力を育成し、ひいてはICTの活用に生かされると考えます。また、棚橋先生のお話にもありましたように、多様な表現方法（人形劇、ペープサート、紙芝居等）を獲得し、活用できるようになることは、思考や活動の幅を広げるためにも大切だと考えます。

「ふり返り」の大切さをおねえよりご指摘いただいております。「何をどう考えたか」も大切ですが、価値観は学ぶべき知識技能でもあると考えます。本単元で育成をめざすESDの価値観は、「郷土愛」、「つながりを尊重する態度」です。4月に比べて、どれだけ育成できたか「ふり返り」の中で、子供たち自身がその成長を感じ、次の目標をもてるような働きかけができればと考えます。